

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成31年度採択）

中間評価結果（公表用／ハード分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
31-6	解析学的信号処理によるトンネル等のうき・剥離の高精度・高速検出の研究開発	東京大学 教授 石田 哲也	A
<p><研究の概要></p> <p>空間周波数分析等の解析学的信号処理手法に基づき、移動計測車両に搭載したレーザースキャナで取得される点群情報からトンネル等のコンクリート表層の特徴を捉えることで、うき・剥離を高速かつ正確に検出する技術を開発する。</p> <p><中間評価結果></p> <p>計測技術や解析技術の開発および現場検証など、計画通り順調に進んでおり、現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p><参考意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・浮きの検出技術への発展を期待したい。 ・提案する検査技術の適用範囲(トンネル内環境など)を明確にした上で、本技術の有用性を評価することが望まれる。 ・実フィールドでの検証結果等を踏まえ、種々の課題を解決し、現場条件を整理して、実運用として点検現場での活用が図られることが重要である。 ・新アルゴリズム適用後も検出漏れ箇所が残っており、その扱いについて整理が必要である。 			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第42回新道路技術会議において審議したものである。